

データでみる大正大学

2009

平成21年4月1日▶平成22年3月31日



大正大学

学校法人 大正大学
理事長 杉谷 義純

自己改革と将来展望を

本学は平成28年（2016）に創立90周年を迎えます。そこで昨年構想を練った中期マスタープランを平成21年度から推進するに当たり、90周年を視野に入れた総合プランとしてスタートしました。

まず第一に目標とされたのは、平成21年4月入学の新入生の確保が受験者数の上昇により順調に出来たことを踏まえ、さらに平成22年度入学生の確保に全力を尽くすことでした。それと同時に、教育力を充実させ社会が必要とする人材を如何に育てあげるか、これらを通じて大学の社会的責任を果たすことが要請されました。その結果、2ヵ年続いて受験者数の増加、この傾向を恒常的なものとするべく教育改革が求められてきたのです。

そこで、平成22年度から4学部体制とするべく文部科学省に申請、4月1日より仏教学部と表現学部の2学部が設置を認められ、従来の人間学部、文学部と共に4学部がスタートしました。さらには、学科、専攻、コースなど教育形態を再編し、受験生にも進学の進路がより理解できるように整備しました。また、キャリア教育研究所を充実させ、卒業後の進路選択に自信を持てるように体制を整えています。

大学を取り巻く環境は依然として厳しく、18歳人口の減少率は数年鈍化するものの、その後は拡大する方向にあります。もちろん進学率の上昇が見込まれたものの、経済の長期低迷によって学費負担の厳しさから、それも余り期待できない状況が続いています。そのような中で大学に問われているものは、大学本来の使命（ミッション）であります。社会的存在として、その意義を問われ、それに応え得る大学のみが今後も生き残っていくであります。いや、生き残りをかけて闘うというのではなく、存在することを要請される大学へと変わっていかねばならないと思います。そのためには、大いなる自己改革を求められるのはもちろんですが、期待されることに応えるための自己改革は苦痛よりもむしろ喜びを感じるものになるはずです。現在進めているTSRはまだ道半ばであるというより、頭の中だけの理解は進んだように見えますが、血肉となるためにはまだまだ意識の共有が足りないように思われます。もちろん、このような改革は一朝一夕で達成できるものではなく、やはり建学の精神とその情熱に立ち戻ることが肝要でありましょう。しかしながら、22年度へ一段と前進する準備は出来たように思います。財務状況を精査しながらキャンパス整備事業の推進、また、関係方面への勧募の要請、さらには同窓会（鴨台会）の組織の充実と大学支援など数々の懸案を教職員一丸となって達成出来ますよう関係各位の一層の御支援をお願いするものであります。

■「キャンパス整備状況」

新7号館教育・研究棟竣工

本学では教育・研究環境の充実のために、キャンパス総合整備を実施しております。その第1弾とでもいふべき「新7号館教育・研究棟」が平成22年3月に竣工しました。新7号館は従来のキャンパスにありがちな閉鎖的なイメージとは大きく異なり、開放的な構造になっています。また、授業以外の時間で学生が交流できるように、グループワークゾーンや情報検索ゾーン（パソコン設置）が設けられています。



キャンパス整備第2期工事がスタート

平成22年度からキャンパス整備第2期工事がスタートします。その第1弾として、昭和43年竣工以来、42年間本学の教育施設の中心として活躍した旧3号館を解体し、新たに「新3号館教育・研究棟」を建設いたします。



新3号館教育・研究棟（平成24年2月竣工予定）



(旧) 3号館正面



(旧) 313号教室



(旧) 2F-3F踊り場

資金収支計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,804,398	3,769,741	34,656
手数料収入	125,589	124,896	692
寄付金収入	344,644	321,210	23,434
補助金収入	355,600	440,787	△85,187
資産運用収入	40,000	42,994	△2,994
事業収入	4,300	4,546	△246
雑収入	87,130	99,238	△12,108
前受金収入	931,200	989,202	△58,002
その他の収入	4,973,512	3,832,946	1,140,566
資金収入調整勘定	△1,063,100	△1,105,161	42,060
前年度繰越支払資金	4,280,612	4,280,612	—
収入の部合計	13,883,885	12,801,014	1,082,870

支出の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,569,381	2,469,187	100,194
教育研究経費支出	1,078,188	1,017,454	60,733
管理経費支出	626,892	554,966	71,926
借入金等利息支出	495	495	0
借入金等返済支出	50,000	50,000	0
施設関係支出	3,047,506	2,399,048	648,457
設備関係支出	107,589	386,066	△278,477
資産運用支出	4,276,937	3,559,990	716,946
その他の支出	262,161	277,719	△15,558
[予備費]	40,357	—	40,357
資金支出調整勘定	△201,438	△368,130	166,691
次年度繰越支払資金	2,025,813	2,454,215	△428,401
支出の部合計	13,883,885	12,801,014	1,082,870

資金収支計算書は、本学の当該会計年度の諸活動に対応する、全ての収入・支出の内容を明らかにし、かつ支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするものです。

資金収入と資金支出の差額である次年度繰越支払資金は、24億5千万円余となり予算を4億2千万円余上回りました。

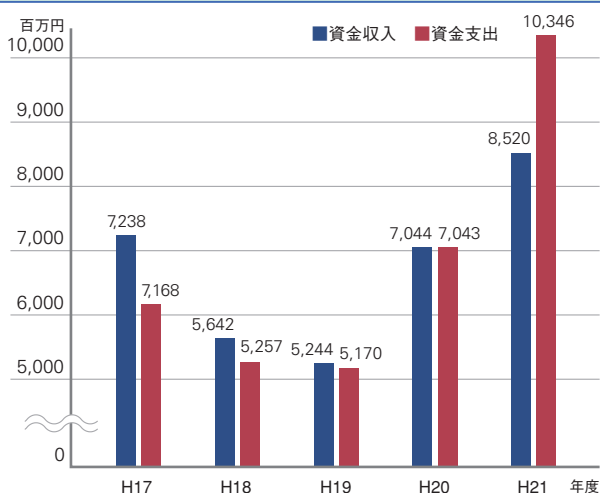
内訳を見ると、収入面では、主に補助金収入が見込みを8千万円余上回ったほか、前受金収入が予算に比して5千万円余も上回ったことによるものです。

支出面では、人件費が予算を下回り24億7千万円余となったほか、教育研究経費支出並びに管理経費支出等、全体的に予算額を下回る結果となりました。

資産運用支出のうち、運用の主なものとして、退職給与引当特定資産（社債）へ3億円、総合仏教研究費引当特定資産2億円です。いずれも満期に伴う運用です。今年度の社債への運用合計は5億円、今年度末の運用合計は約29億円となりました。

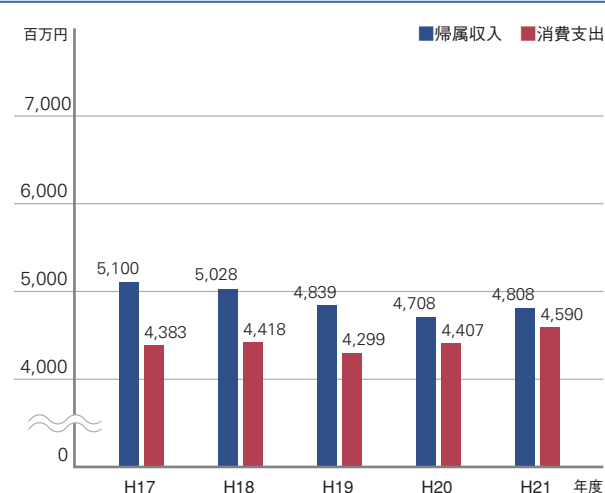
資産運用の期末評価損益については、約5千万円余の黒字となっています。

資金収支の推移



(注) 資金収支の推移の「資金収入」は資金収支計算書の「収入の部合計」から「前年度繰越支払資金」を控除した金額であり、「資金支出」は「支出の部合計」から「次年度繰越支払資金」を控除した金額です。

消費収支の推移



消費収支計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

消費収入の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,804,398	3,769,741	34,656
手数料	125,589	124,896	692
寄付金	344,644	325,946	18,697
補助金	355,600	440,787	△85,187
資産運用収入	40,000	42,994	△2,994
事業収入	4,300	4,546	△246
雑収入	87,130	99,238	△12,108
帰属収入合計	4,761,661	4,808,151	△46,490
基本金組入額合計	△3,081,385	△2,273,968	△807,417
消費収入の部合計	1,680,275	2,534,183	△853,907

消費支出の部

(単位：千円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	2,564,739	2,472,566	92,172
教育研究経費	1,435,188	1,385,187	50,001
管理経費	669,892	597,178	72,714
借入金等利息	495	495	0
資産処分差額	143,709	134,713	8,996
[予備費]	45,000	—	45,000
消費支出の部合計	4,859,025	4,590,140	268,885
当年度消費支出超過額	3,178,749	2,055,957	—
前年度繰越消費支出超過額	1,462,034	1,462,034	—
翌年度繰越消費支出超過額	4,640,784	3,517,991	—

消費収支計算書は、計算目的に違いはあっても、いわば企業会計の損益計算書にあたるもので、本学の経営状態が健全であるかどうかを示すものです。

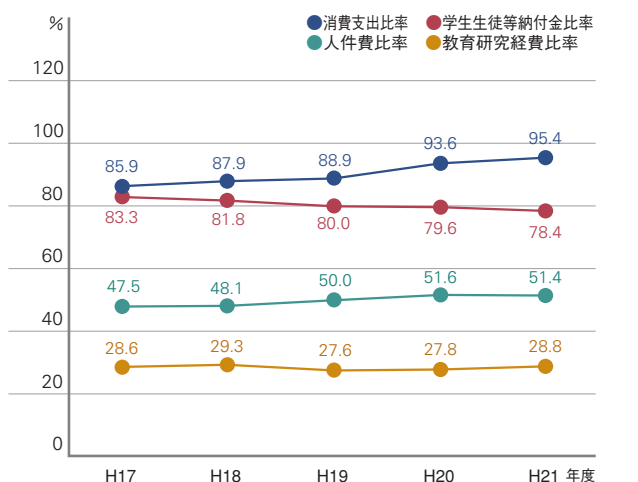
帰属収入は、学生生徒等納付金、手数料、寄付金（現物寄付金除く）、補助金、資産運用収入、事業収入及び雑収入の法人に帰属する負債とならない収入で、資金収入の当該科目とほぼ同額です。

帰属収入48億円余から基本金組入額を控除した消費支出に充当することができる消費収入は25億3千万円余となります。

消費支出は、教職員の人件費、教育研究活動及び法人の運営に必要な諸経費で、約46億円となりました。

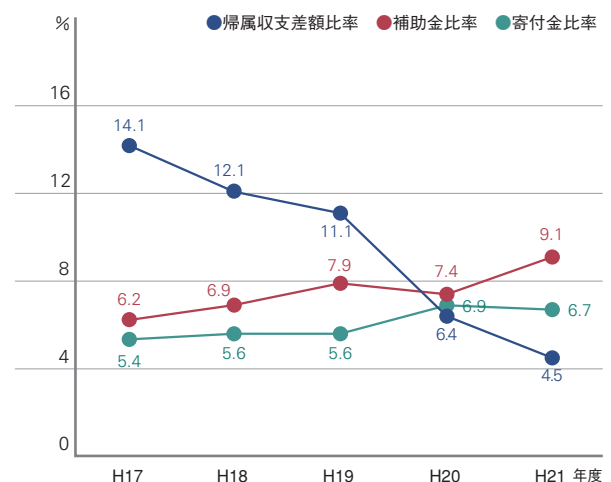
平成21年度決算における帰属収支差額は2億円余の黒字を計上、消費収支差額は20億円余の支出超過となりました。消費収支差額が多額であるのは、校舎建設に伴い、基本金繰入額が約23億円であることが大きな要因です。

消費収支関係財務比率の推移 ①



消費支出比率＝消費支出／帰属収入
 学生生徒等納付金比率＝学生生徒等納付金／帰属収入
 人件費比率＝人件費／帰属収入
 教育研究経費比率＝教育研究経費／帰属収入

消費収支関係財務比率の推移 ②



帰属収支差額比率＝(帰属収入－消費支出)／帰属収入
 補助金比率＝補助金／帰属収入
 寄付金比率＝寄付金／帰属収入

貸借対照表

平成22年3月31日

資産の部

(単位：千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	18,444,229	16,325,671	2,118,558
有形固定資産	14,655,614	12,422,088	2,233,526
その他の固定資産	3,788,615	3,903,583	△114,968
流動資産	2,659,810	4,420,761	△1,760,951
合 計	21,104,040	20,746,433	357,607

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部

(単位：千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部	2,613,335	2,473,738	139,596
固定負債	1,228,023	1,210,052	17,970
流動負債	1,385,311	1,263,685	121,626
基本金の部	22,008,697	19,734,728	2,273,968
消費収支差額の部	△3,517,991	△1,462,034	△2,055,957
合 計	21,104,040	20,746,433	357,607

(注1)

(単位：千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
減価償却額の累計額の合計	6,518,986	6,371,407	147,579

(注2)

(単位：千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金未組入額	203,095	62,573	140,522

※基本金未組入額は翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額です。

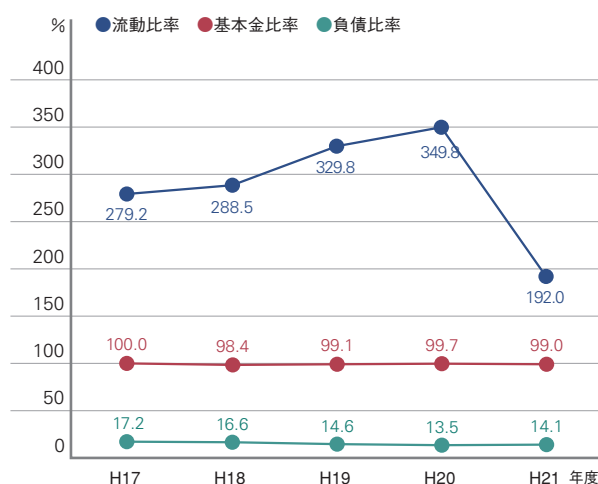
有形固定資産は、第Ⅰ期キャンパス総合整備計画に伴う校舎建設等により22億円余の増加となりました。

その他の固定資産は、第Ⅰ期キャンパス総合整備計画に伴う設備資金支出に充当のため、大学整備費引当特定預金・資産の取り崩し2億5千万円余を行ったことにより1億1千万円余の減少となりました。

流動資産は、設備費支払いによる現預金を主に17億6千万円余の減少となりました。

一方、負債の部で、借入金が増加したこともあり、正味資産は2億円余の増加となりました。

貸借対照表関係財務比率の推移



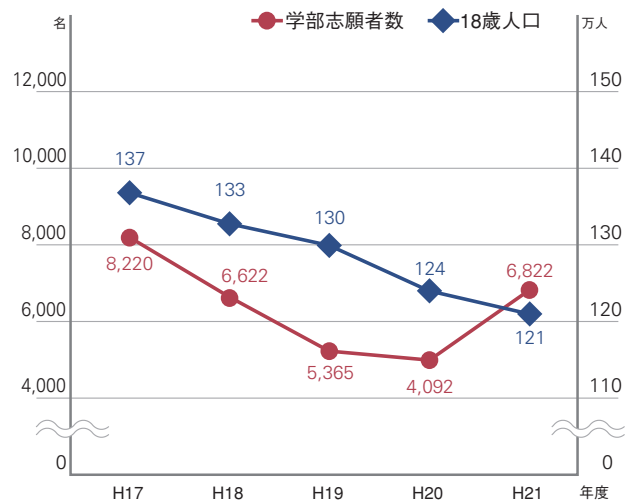
流動比率 = 流動資産 / 流動負債 基本金比率 = 基本金 / 基本金要組入額
 負債比率 = 総負債 / 自己資金 (= 基本金 + 消費収支差額)

学部・学科別志願者数・合格者数・入学者数 平成21年度

(単位：名)

学 部	学科・専攻	志願者数	合格者数	入学者数
人間学部	仏教学科	252	176	127
	アーバン福祉学科	632	276	153
	臨床心理学科	1,602	234	117
	人間科学科 (人間科学専攻)	955 (669)	404 (240)	232 (131)
	(教育人間学専攻)	(286)	(164)	(101)
	計	3,441	1,090	629
文学部	表現文化学科	1,771	333	189
	歴史文化学科	1,610	328	177
	計	3,381	661	366
合 計		6,822	1,751	995

学部志願者数・18歳人口の推移

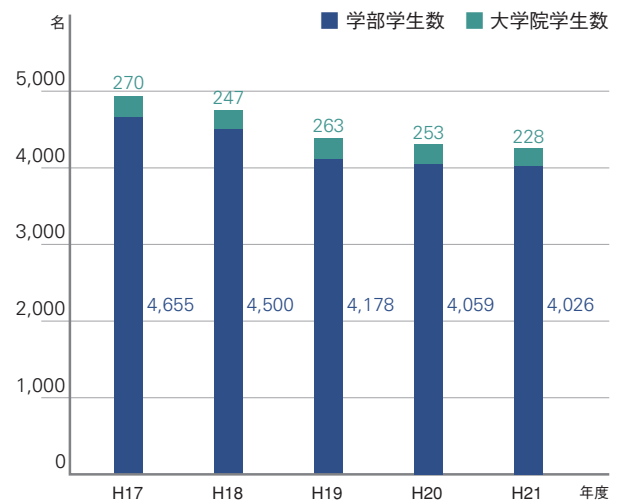


学部・大学院別定員・学生数等 平成21年5月1日現在

(単位：名)

学 部	入学定員	収容定員	編入学定員	学生数
人間学部	535	2,178	69	2,470
文学部	290	1,352	46	1,556
合 計	825	3,530	115	4,026

学生数の推移



大学院学生数 (単位：名)

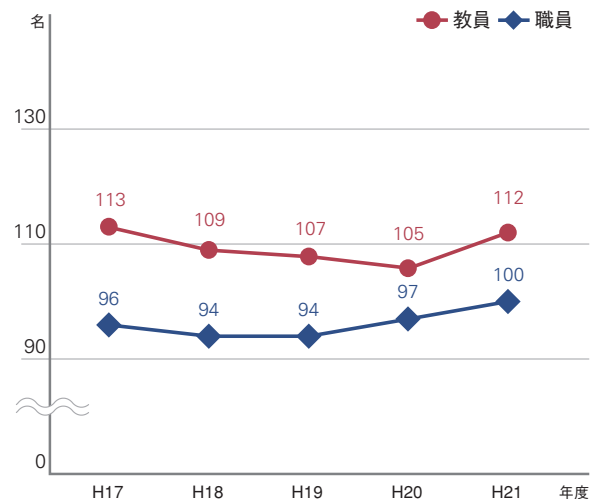
研 究 科	博士前期課程 (修士課程)			博士後期課程		
	入学定員	収容定員	学生数	入学定員	収容定員	学生数
仏教学研究科	40	80	74	7	21	35
人間学研究科	48	96	57	6	18	7
文学研究科	50	100	42	12	36	13
合 計	138	276	173	25	75	55

教職員数 平成21年5月1日現在

(単位：名)

	教授	准教授	専任講師	助教	合計
人間学部	47	22	3	1	73
文学部	29	4	3	1	37
I類	0	2	0	0	2
合 計	76	28	6	2	112

教職員数の推移



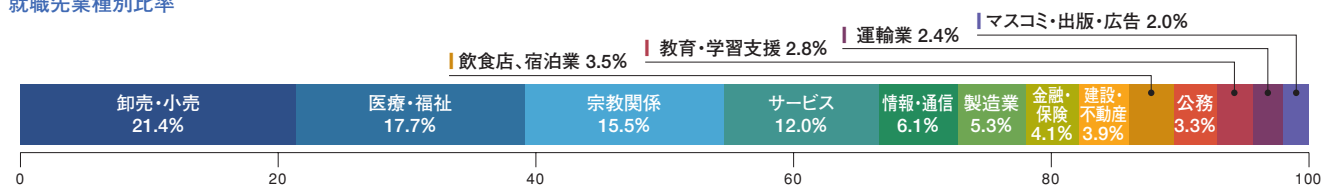
職員数 (単位：名)

	専任	常勤嘱託	合計
	70	30	100

就職状況

平成22年4月30日現在

就職先業種別比率



主な就職先

卸売・小売業	カネボウ化粧品販売(株)／(株)成田デンタル／(株)はせがわ／(株)カインズ／(株)銀座山形屋／(株)くすりの福太郎／(株)コモディイダ／サミット(株)／(株)サンエー・インターナショナル／(株)サンドラッグ／(株)ジェーン／(株)しまむら／(株)ストロベリーフィールズ／(株)セイジョー／(株)そごう・西武／(株)ツツミ／(株)東急ストア／(株)東京玉子本舗／(株)東武ストア／(株)テムビバ(株)／(株)ビックカメラ／(株)ホンダカーズ埼玉／(株)マミーマート／(株)三城／(株)メガネット／ユザワヤ商事(株)／横浜トヨペット(株)／(株)ライフコーポレーション／(株)ワールドストアパートナーズ	製造業	(株)泉澤物産／イトキン(株)／岩崎電気(株)／(株)エーデルワイス／(株)三陽商会／(株)翠雲堂／日本ベーリンガーインゲルハイム(株)／ハラダ製茶(株)／フランスベッド(株)／前田硝子(株)／松本徽章工業(株)／(株)リコー化成
医療・福祉業	アースサポート(株)／アピリティーズ・ケアネット(株)／(株)ウイズネット／(株)ケアサービス／セントスタッフ(株)／(株)ニチケアパレス／(株)日本デイケアセンター／(株)ベネッセスタイルケア／メディカル・ケア・サービス(株)／ワタミの介護(株)／(医)IMSグループ／(社福)あいの福祉会／(社福)賛育会／(社福)東京蒼生会／(社福)東京都社会福祉事業団／(社福)白十字会	金融・保険業	(株)栃木銀行／城北信用金庫／東京東信用金庫／しのもめ信用金庫／川口信用金庫／君津信用組合須賀川信用金庫／北群馬信用金庫／信用組合横浜華銀／イオンクレジットサービス(株)／アフラック保険サービス(株)／ジェイアンドエス保険サービス(株)／第一生命保険(相)／明治安田生命保険(相)／日本興亜損害保険(株)
情報通信業	(株)エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア／共同コンピュータ(株)／T I S(株)／日本企画(株)／(株)マイクロメイツ／明治安田システム・テクノロジー(株)	宿泊・飲食業	(株)サイゼリヤ／(株)叙々苑／スターバックスコーヒージャパン(株)／タリーズコーヒージャパン(株)
サービス業	(株)オリエンタルランド／(株)くらしの友／クラブツーリズム(株)／東洋リネンサプライ(株)／(株)長野県民球団／(株)鳳友産業／(株)武蔵野／横浜マリノス(株)／(株)スタジオアリス／生活協同組合連合会コープネット事業連合／TBCグループ(株)／プリモ・ジャパン(株)／リコーテクノシステムズ(株)／さいたま農業(協)／郵便局(株)	公務	埼玉県／栃木県／清瀬市／柏市／宇都宮市／芳賀町／身延町／警視庁／神奈川県警察本部／東京消防庁／横浜市消防局／海上保安庁／海上自衛隊
		教育・学習支援業	(株)市進／(株)学秀舎／(国)群馬大学教育学部附属中学校／(学)大正大学
		建設・不動産業	(株)センチュリーホーム／タマホーム(株)／ゆとりフォーム(株)／オークラヤ住宅(株)／積和不動産(株)／東急リバブル(株)／(株)ハウスメイトパートナーズ／(株)リロ・ホールディング
		マスコミ業	(株)イースト／(株)イシクラ／(株)石田大成社／(株)ザ・ワークス／(株)マイプリント／六三印刷(株)
		運輸業	日本通運(株)／北海道旅客鉄道(株)／郵便事業(株)

役員等の状況

平成22年3月31日現在

理事

理事長：杉谷義純

学長：小峰彌彦

常任理事：若槻繁隆、岡本宣丈、吉田宏哲

相談役：里見達人

理事：榎本昇道、粕谷利通、疋田精俊、石上善應、小澤憲珠

監事：山田俊和、五十嵐賢二、鈴木中也、安孫子虔悦

評議員：28名（うち6名理事兼務）

顧問：4名



学校法人 大正大学 総務部

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

TEL 03-3918-7311 FAX 03-5394-3037

E-Mail info@mail.tais.ac.jp